

○ 各教科ごとの出題方針

国語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、国語で正確に理解し適切に表現する力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、中学生の実態にあった素材を広く求め、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。また、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力をみるようにした。</p> <p>領域別等にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 知識及び技能</p> <p>言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項については、漢字の読み書き、表現の技法、文法の基礎的な事項、情報の整理についての力をみるようにした。</p> <p>【四】では、平安時代の日記文学により、我が国の言語文化に関する事項についての力をみるようにした。</p> <p>(2) 「話すこと・聞くこと」の領域</p> <p>【一】では、地域の美化活動で何を行うか決めるための話し合いの場面を設定し、話題や展開を捉えながら話し合う力をみるようにした。</p> <p>(3) 「書くこと」の領域</p> <p>【五】では、ポスターに方言を用いた際の効果について考える場面を設定し、資料の内容を理解する力を問うとともに、根拠を明確にし、文章の構成を工夫して自分の考えを書く力をみるようにした。</p> <p>(4) 「読むこと」の領域</p> <p>【二】では、困っている子どもが自分から助けを求めることができるまで、あえて助けることなく見守る行動をとる先生と、それを見て考えを改める主人公の様子を描いた文章により、登場人物の描写に着目して文章の内容や登場人物の心情を理解する力や、文章中にある表現の効果について考える力をみるようにした。</p> <p>【三】では、新たな知識と既存の知識を関連付けて考えることの重要性を論じた文章により、目的や必要に応じて文章の内容を要約したり要旨を捉えたりするとともに、文章の構成や展開、筆者の主張を捉える力をみるようにした。</p>
社会	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野</p> <p>「世界と日本の地域構成」に関しては、オセアニア州についての問いで知識及び技能をみるようにした。</p> <p>「世界の様々な地域」に関しては、世界の各都市の年平均気温と年降水量やフィヨルドについての問いで知識及び技能を、インドネシアの環境問題についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>「日本の様々な地域」に関しては、対馬海流やIターンについての問いで知識及び技能を、持続可能な漁業や交通網の整備により地方都市が抱える新たな課題についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野</p> <p>「古代から近世の歴史」に関しては、渡来人やヨーロッパ人の日本への来航についての問いで知識及び技能を、室町幕府の仕組みや江戸時代の幕領(鉾山)についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>「近代・現代の歴史」に関しては、征韓論や高度経済成長期に起きたことがらについての問いで知識及び技能を、アヘン戦争でイギリスが勝利した要因や日本の国際連合加盟の時期についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野</p> <p>「私たちと現代社会」に関しては、人工知能についての問いで知識及び技能を、効率と公正についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>「私たちと経済」に関しては、各国の社会保障支出率と国民負担率についての問いで知識及び技能を、日本銀行の金融政策についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>「私たちと政治」に関しては、司法制度改革や政治参加の方法についての問いで知識及び技能を、連立政権の長所についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>「私たちと国際社会の諸課題」に関しては、PKOについての問いで知識及び技能を、バーチャルウォーターやフェアトレードの意義についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、それらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、各領域をバランスよく出題し、数学の事象について統合的・発展的に考える力をみるよう配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「数と式」の領域 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。 また、連立方程式の問題では、日常の事象を数学化し、数量の関係を捉え、数学的に表現したり処理したりする力をみるようにした。</p> <p>(2) 「図形」の領域 平面図形や空間図形では、図形の性質などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。 また、四角錐の展開図から体積を求めたり、四角錐を3つの立体に分けたときの体積を求めたりする問題では、図形を多面的に考察する数学的な思考力をみるようにした。</p> <p>(3) 「関数」の領域 一次関数の決定、関数 $y = ax^2$ の変域などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。 また、座標平面における直線の方程式及び点の座標を求める問題では、グラフを活用して数学的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(4) 「データの活用」の領域 確率の問題では、確率の意味やその求め方などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、表などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。 また、箱ひげ図の問題では、箱ひげ図を用いて、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察したり、判断したことを数学的な表現を用いて説明したりする力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能と、科学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、分野、領域、学年のバランスをとるとともに、自然の事物・現象についての観察、実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などをみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「エネルギー」を柱とする領域 台車を用いた実験を通して、実験結果を解釈し、物体の運動の規則性やエネルギーの関係性について考察する力をみるようにした。また、光の性質についての理解を通して、光の反射や屈折の規則性を考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 「粒子」を柱とする領域 化学変化に関する実験を通して、化学変化のようすを化学反応式で表す力や、反応する物質や生成する物質の質の質量の関係性を考察する力をみるようにした。また、状態変化に関する実験を通して、固体と液体の密度の関係性について考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「生命」を柱とする領域 生物の遺伝に関する実験を通して、細胞と染色体に関する基礎的・基本的な知識や、遺伝の規則性に着目し考察する力をみるようにした。また、人体のつくりに関する資料の分析を通して、心臓の働きと血液量の関係性について考察する力をみるようにした。</p> <p>(4) 「地球」を柱とする領域 大地の変化に関する資料の分析を通して、火山岩や大地の形成に関する基礎的・基本的な知識や、大地の変動と地層の堆積を関連付けて考察する力をみるようにした。また、天体に関する資料の分析を通して、季節による星座の見え方の規則性を考察する力をみるようにした。</p>

英語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、コミュニケーションを図るために必要な知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるよう配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域</p> <p>【1】では、買い物についての対話やスケジュール決定についてのやり取り、文化祭における案内放送、留学生を日本の祭りに誘う対話を聞き、必要な情報を聞き取る力をみるようにした。</p> <p>(2) 「読むこと」の領域</p> <p>【2】Aでは、ホームステイ中の中学生に学校案内をしている対話の内容を正確に読み取る力をみるようにした。</p> <p>【2】Bでは、ウェブサイトを見ながら、必要な情報を正確に読み取る力をみるようにした。</p> <p>【4】(1)～(4)では、社会的な話題について、3人の中学生の発表内容やスライド資料の内容、発表後のディスカッションの内容を、英文からの情報をもとに読み取る力をみるようにした。</p> <p>【5】では、中学生のスピーチの内容を、流れに即して理解し、概要や要点を読み取る力をみるようにした。</p> <p>(3) 「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の領域</p> <p>【3】(2)では、留学生が待ち合わせに間に合うよう、目的・場面・状況に応じて、交通手段を適切に提案する力を、さらに、【3】(3)では、自分の経験について表現する場面を設定し、英語で適切に伝える力をみるようにした。</p> <p>【4】(5)では、読み取った内容を踏まえて、世界が抱える課題について英語で表現する力をみるようにした。</p>
----	---

○ 各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項（誤答例等）
				A	B	
【一】	問一	(1)	74.6	○		(1)「垂」(2)「臨機」は一面多かったり最終面の点がなかったりする誤答が目立った。(3)「潮流」は正答率が低く、誤答として「長流」「朝龍」など、語句の意味を理解できていないと思われる誤答が多かった。楷書で丁寧に文字を書くことが求められる。
		(2)	51.4	○		
		(3) 漢字の知識	11.6	○		
		(4)	73.1	○		
		(5)	53.4	○		
	問二	(1) 品詞(助動詞)の理解	68.2	○		助動詞の知識を問う問題と話し合いの場面を想定した問題であったが、概ねよくできていた。
		(2) 話し合いの進め方の検討	67.9		○	
		(3) 話し合いの考えの形成	68.0		○	
【二】	問一	登場人物「ゆりっぺ」の行動の意図	76.9		○	問三(1)では本文中の言葉をそのまま用いて「助けてって」という口語表現の解答が目立った。また、空欄前の言葉を見落とし「あやめちゃん」の部分が重複している解答や、「しんどいときに」という内容が抜けている誤答が多かった。空欄前後とのつながりを意識しつつ、本文を適切に読み取り内容をまとめる力が求められている。問三(4)では「成長」「感謝」という誤答が多かった。(1)と同様に、本文の内容を適切に読み解いていない様子がうかがえる。設問や場面設定の状況をよく読み、解答する力が必要である。
	問二	こどもたちの様子	57.5		○	
	問三	(1) 登場人物「ゆりっぺ」の心情	3点 39.5 2点 35.7 1点 7.4		○	
			2点 74.2 1点 0.1		○	
			76.7		○	
		(2) 登場人物「ゆりっぺ」の心情(抜き出し)	2点 74.2 1点 0.1		○	
		(3) 登場人物「野々歩」の心情	76.7		○	
		(4) 語句の理解	2点 39.9 1点 0.2		○	
					○	
	問四	表現の効果	52.6		○	
【三】	問一	(1) 内容の把握	2点 54.0 1点 0.1		○	問一は本文の要旨をまとめた【ノートの一部】を解答する問題であった。【二】の問三と同様に、本文の表現をそのまま抜き出したことで、空欄の前後とのつながりに不備のあるものや助詞の使い方が適切でないものが目立った。問一(4)では、「本文中の言葉を使って」という条件から本文をそのまま抜き出す解答が多く、主語、目的語が不明瞭な答案が見受けられた。具体的には「知識」という表記が抜けていることで「何が」豊かになるのかかわからない解答などである。主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係など、文の構造を正しく理解し、自分の言葉で説明する力が必要である。
		(2) 内容の把握	2点 39.5 1点 0		○	
		(3) 内容の把握	70.9		○	
		(4) 内容の解釈	3点 13.8 2点 27.4 1点 13.0		○	
	問二	文章の構成や展開	47.1		○	
	問三	(1) 内容の把握	58.4		○	
		(2) 考えの形成	62.5		○	
【四】	問一	文語のきまり	90.9	○		問一(1)文語のきまりについては正答率が高い一方で、行書の理解は50%を下回っており、書写の学習と関連付けた行書の特徴への理解が求められる。問四(1)は「女郎花の入った和歌」という内容に言及していない答案が多数あった。また、登場人物それぞれの言動を適切に理解していない解答が多く見受けられた。
	問二	行書の理解	47.9	○		
	問三	内容の把握	39.5		○	
	問四	(1) 内容の解釈	2点 1.6 1点 6.8		○	
		(2) 語句の意味	33.3		○	
	問五	内容の把握	53.2		○	
【五】	問一	情報の読み取り	38.0		○	【五】は複数の資料を読み取り、表現の工夫について記述する問題であった。問三は資料【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】を適切に読み取り、ポスターの表現の効果を問う問題であったが、資料(グラフ)の読み取り間違いや文の構造が不明瞭な解答が目立った。また、ポスターに対する効果ではなく、方言に対する効果を答えた解答も一定数あった。なお、【五】に限らず、走り書きのような乱雑な字が目立った。
	問二	表現の工夫と効果	48.0		○	
	問三	論理の展開の工夫	6点 13.6 5点 12.5 4点 18.4 3点 13.0 2点 10.7 1点 6.9 無記入 10.4		○	
					○	
					○	
					○	
					○	

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項について、漢字の問題では、「潮流」（書き）、「折衷」（読み）の正答率が低く、それぞれ 11.6%、53.4%であった。
- ・漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、語彙を増やすことが大切である。授業や学校生活を通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。
- ・乱雑な表記にならないために、**字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で正確に書くことができるように学習する**ことが求められる。書写の学習と関連付け、楷書や行書について適切に理解することが必要である。
- ・助詞・助動詞の働きの理解については正答率が高かった。
- ・**我が国の言語文化について理解を深めるとともに、自分の考えを言葉で適切に表現する力が求められている。**特に語彙の力については問題全体で要求されており、理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、確実に習得していくことが重要である。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

- ・【三】問三は、複数の文章を比較したうえで、文章を読んで理解したことを自分の知識や経験と結び付けさせる設問、【五】問三は、ポスターに方言を用いることの効果を考える想定のもと、根拠を明確にし、構成を工夫しながら自分の考えを述べさせる設問など、**中学校での学習や実生活と結び付けた視点から、言葉により論理的に思考し、表現する力をみるようにした。**

(2) 解答結果とその分析

- ・【三】問三（１）（２）の正答率はそれぞれ 58.4%、62.5%であり、平素の授業で身に付けた力が活用できたと考えられる。文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付ける際には、関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的に明確なものにしていくことが重要である。
- ・【五】問三の結果は、平均得点率 47.6%（R6：45.6%）であり、無記入率は 10.4%（R6：12.3%）であった。この問題ではポスターに方言を用いることの効果を考える想定のもと、根拠を明確にし、構成を工夫しながら、自分の考えを書く必要がある。**文章を書く際は目的や意図、読み手の立場に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることが求められる。**また書いた後は、目的や意図に応じた表現になっているかという視点で文章全体を整えることも必要である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「知識及び技能」の各指導においては、**語彙語句の習得と活用の機会を授業内外で意図的に仕組み、生徒自身が言葉を豊かにしていくことの良さや必要性を感じられるような工夫が必要である。**加えて、多様な文章に触れる機会を増やすために**読書指導の充実**も求められる。
- ② 「思考力、判断力、表現力」の各指導においては、**付けたい力を明確にした単元計画による言語活動の質の向上**が求められる。生徒と単元のゴールの姿を共有し、目的や意図を継続的に意識するとともに、それに応じた内容・構成・表現になっているかを確かめる場面を工夫することが必要である。
- ③ ICT の利用が幅広く進められるなか、より効果的な活用方法を考えるとともに、収集した情報同士の関係を理解する力や相手意識を持って文字を書くこと等の指導も引き続き日常的に取り組んでいく必要がある。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深めることはもちろん、義務教育段階での学習内容や習得状況への理解を深めることで生徒の実態を正しく把握し、どのような資質・能力をつけるのかを明確にした授業の目標設定を行うことが大切である。**また、適切に評価を行うための振り返りの機会を確保することが重要である。
- ② 主体的・対話的で深い学びのある授業を実現するために、ICT を効果的に使うなど**学習者が探究的に取り組むことのできる言語活動を設定する工夫**が求められる。
- ③ 学習指導要領を踏まえて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における授業時数を適切に配当して指導することが必要である。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項（誤答例等）
				A	B	
【1】	(1)	① オセアニア州	67.9	○		<p>(1)①「オーストラリア」という誤答が多かった。世界の州名や国名は、社会科の学習全般を通じて、地図帳を活用するなどして適宜取扱い、知識の定着を図ることが必要である。</p> <p>(1)④漁業振興と環境問題の因果関係が結びついていない解答が見られた。複数の資料から読み取ったことを関連付ける際には、相互関係を整理して図（フローチャートなど）にまとめる学習が効果的である。</p> <p>(2)④「若い世代の育成」という具体策に至らない解答が見られた。現代社会に見られる課題の解決を目指すためには、持続可能性に着目し、資料に基づいて考察、構想することが大切である。</p>
		② 世界の各都市の年平均気温と年降水量	58.6	○		
		③ 世界の各国の養殖業の収穫量と農産物の生産量	45.8	○		
		④ インドネシアの環境問題	2点 33.1 1点 37.4		○	
		⑤ フィヨルド	69.8	○		
	(2)	① 対馬海流	66.1	○		
		② 断面図	23.5		○	
		③ 日本の県別農水産物の産出額	56.5		○	
		④ 持続可能な漁業	2点 39.0 1点 33.9		○	
【2】	(1)	渡来人	81.8	○		<p>(2)元寇が国内に及ぼした影響だけでなく、ユーラシアの変化の中で起こったことを理解する必要がある。</p> <p>(3)鎌倉府の設置理由を「朝廷を監視する」と選択した誤答が多かった。歴史的分野の学習においても、「それはどのような場所なのか」などを問うことで、地理的な見方・考え方を働かせ、その場所の地域的特色を明らかにし、背景や理由を考察することが大切である。</p> <p>(5)資料から必要な情報を読み取り、習得した知識や概念と関連付けて、年表や地図を作成したり、文章にまとめたりする学習が求められる。</p>
	(2)	元寇(モンゴル帝国の襲来)	8.2	○		
	(3)	室町幕府の仕組み	25.6		○	
	(4)	ヨーロッパ人の日本への来航	45.5	○		
	(5)	アヘン戦争でのイギリスの勝利の要因	2点 22.6 1点 15.7		○	
	(6)	歌川広重の作品(一部改変)	42.2	○		
	(7)	征韓論	28.4	○		
	(8)	民族自決の考えの影響	28.0		○	
	(9)	高度経済成長期に起きたことから	35.5	○		
【3】	(1)	司法制度改革	16.4	○		<p>(2)「多様な」の意が欠如した解答が多かった。社会的現象を比較する場合には、対象の共通点と相違点を明らかにするために、図（ベン図など）で整理する学習が効果的である。</p> <p>(3)「NPO」「NGO」「ODA」などの誤答が散見された。国際機関の略称については、語句を暗記するのではなく、意味を理解しながら学習することが効果的である。</p> <p>(5)「人口」という誤答が多かった。</p> <p>(6)対立と合意、効率と公正など現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みを理解するだけでなく、習得した見方・考え方を働かせる場面を設定し、深い学びを進めることが、公民的分野の学習で求められる。</p>
	(2)	連立政権の長所	2点 10.2 1点 37.5		○	
	(3)	PKO	55.3	○		
	(4)	日本銀行の金融政策	50.7		○	
	(5)	人工知能	45.6	○		
	(6)	効率と公正	50.1		○	
	(7)	政治参加の方法	51.1	○		
	(8)	TPP11協定の内容と影響	64.1		○	
	(9)	各国の社会保障支出率と国民負担率	44.4	○		
【4】	(1)	奈良時代に起きたことから	42.6	○		<p>(2)地図で示された情報を読み取る際には、地理的条件に着目し、習得した知識や概念を活用して、事実を正確に捉えることが大切である。</p> <p>(5)「スロー現象」「ドーナツ化現象」「Uターン」などの誤答が散見された。類似の語句については、模式図の作成を通して視覚的に理解する学習が効果的である。</p> <p>(6)交通を中核として地理的事象を考察するに当たっては、交通が地域の産業や都市などと深い関係を持っていることや、地域間の結び付きの整備が地域の課題となることなどを考察することが大切である。</p>
	(2)	江戸時代の幕領(鉾山)	2点 18.1 1点 21.1		○	
	(3)	日本の国際連合加盟の時期	52.8		○	
	(4)	日本の各県の発電量の発電方式別割合	27.5		○	
	(5)	Iターン	28.6	○		
	(6)	交通網の発達により地方都市が抱える新たな課題	2点 22.6 1点 21.7		○	
【5】	(1)	分布図	40.9	○		<p>(4)「国際河線」「国祭河川」などの誤字が散見された。</p> <p>(5)資源については、地域や国家の問題であるとともに、地球規模の問題として捉え、多面的・多角的に考察することが大切である。</p> <p>(6)フェアトレードの仕組みや目的の誤答が多かった。また、指定語句をすべて用いることができない解答も目立った。「理由と目的」のように複数の条件に従って表現する際は、条件ごとに考察し、論理的に説明することが求められる。</p>
	(2)	帝国主義	72.1	○		
	(3)	水資源量	40.6	○		
	(4)	国際河川	55.1	○		
	(5)	仮想水	2点 8.3 1点 9.1		○	
	(6)	フェアトレード	2点 20.0 1点 20.7		○	

【評価の観点】 A：知識及び技能 B：思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・知識及び技能を問う問題の平均正答率は47.4%であった。
- ・語句記述問題の平均正答率は54.1%であった。【3】(3)や【4】(5)のように個別の事実などに関する知識の類似や差異を測る問題は、特に誤答が多かった。社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることが重要であり、**用語の類似や差異などを明確にする学習**を行うことが効果的である。また、誤字による減点が多かった。重要用語は正しく漢字で書くことが求められる。
- ・記号選択問題の平均正答率は43.6%であった。【3】(9)や【5】(1)のように学習上の課題の解決につながる情報を読み取る問題を意識して出題している。日常の授業では、**様々な資料を扱い、情報を効果的に調べまとめる学習**を計画的に設定することが大切である。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・中学校社会科では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことを目標としている。
- ・文章記述問題を8問出題し、【1】(2)④のように、海面漁業就業者に関わる複数の資料から持続可能な漁業の在り方について思考・判断し、具体策を表現する力をみるようにした。
- ・記号選択問題を9問出題し、【4】(4)のように、全国の発電量の発電方式別割合から特徴を読み取り、自然環境や資源・エネルギーと産業などの知識と関連付けて思考し、判断する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・思考力、判断力、表現力を問う問題の平均正答率は33.2%であった。
- ・文章記述問題の平均正答率は28.3%であった。その要因としては、資料を適切に読み取れていないこと、資料と関連した既習知識を引き出せていないこと、条件に沿って論理的な思考や説明ができていないことがあげられる。適切に表現するためには、**設問の意図を正確に捉えてどのような要素が必要か判断する力と、既習知識と結び付けて論理的に説明する力**が必要である。
- ・記号選択問題の平均正答率は42.1%であった。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「知識及び技能」の指導においては、個別の事実などに関する知識や**社会的事象の特色や意味、理論等を含めた汎用的に使用できる概念などに関わる「生きて働く」知識を獲得するように学習を設計**することが求められる。また、「調べまとめる技能」は、一度にそれらの技能のすべてを養おうとするのではなく、生徒に身に付けることが目指される**技能を活用する学習を、計画的・意図的に単元に位置付け、その習熟を図るように指導**することが大切である。
- ② 「思考力、判断力、表現力」の指導においては、**資料等を活用して考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする**など、社会に見られる課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのかという実態を把握**した上で、指導計画を作成することが必要である。また、**中学校と高等学校の学びの連続性**を図るとともに、**各科目の特質と相互の関連性を考慮**する必要がある。
- ② 「知識及び技能」の指導においては、**基礎的・基本的な知識を確実に身に付ける**とともに、既習知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、社会における様々な場面で活用できる**概念などに関する知識を獲得する学習**を展開することが大切である。
- ③ 「思考力、判断力、表現力」の指導においては、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、**概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う**ことが大切である。身に付けたい資質・能力を明確にし、**社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする学習活動**を単元の中に位置付け、計画的に進めることが求められる。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 ([]内は誤答例)
				A	B	
【1】	(1)	① 正の数と負の数	95.5	○		①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。 計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に用いることで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。
		② 正の数と負の数	86.9	○		
		③ 文字式の計算	82.7	○		
		④ 文字式の計算	59.0	○		
		⑤ 平方根の計算	75.9	○		
	(2)	二次方程式	71.2	○		因数分解を用いた計算の技能は概ね身に付いている。 二次方程式を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が必要である。
	(3)	関数 $y=ax^2$ の変域	65.6	○		関数 $y=ax^2$ の変域は高校の学習に直結する内容であるため、グラフから変域を考える学習活動が必要である。
	(4)	多角形の内角と外角	71.7	○		多角形の角度を求めるために、単純な図形に分割したり、さまざまな方針を比較検討したりする学習活動が必要である。
【2】	(1)	関数 $y=ax^2$ の定数決定	75.6	○		関数と図形の性質を融合させた学習活動が必要である。 (3)では、点Eのx座標を変数で設定し、先を見据えた考察と条件に合わせた検討が重要である。また、複雑な計算を最後まで諦めずに解き切る力が求められる。
	(2)	一次関数の決定	45.7		○	
	(3)	座標の決定	3.0		○	
【3】	(1)	① 確率	56.2	○		(1)(2)ともに、問題文の情報を正確に読み取る力が必要である。 (1)では、すべての場合の数について、表を利用するなどして地道に数え上げることが重要である。[(1) 1を超える値。] (2)では、日常生活と関連付けた題材を取り扱うような学習活動が必要である。[(2)① 6000円など現実とはかけ離れた値。]
		② 確率	34.9		○	
	(2)	① <small>からあげ</small> <small>とり天</small> 割合の計算	47.1	○		
			41.0	○		
	(2)	② 連立方程式の利用	15.4		○	
【4】	(1)	最頻値	54.9	○		箱ひげ図を用いて、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察したり判断したことを説明したりすることが必要である。日常の事象を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために必要なデータを収集し、学習者用端末などを利用してデータを整理し、四分位範囲を求めたり箱ひげ図に表したりして複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、その結果をもとに説明するという一連の活動を経験できるようにすることが重要である。 [(1) 27.0～27.5、27.3] [(2)② 「主語がない」「四分位範囲に触れてない」「箱に注目していない」「結論を述べていない」]
	①	A	35.3	○		
		B	81.2	○		
		C	42.9	○		
	(2)	② 箱ひげ図の比較	3点 2.1 2点 4.7 1点 1.9 無記入 27.2		○	
【5】	(1)	① 四角錐の展開図	63.2	○		(1)②では、平面に垂直な直線の性質を活用して、四角錐の高さを求めることが重要である。 (2)では、相似比と体積比の関係を活用する力が必要である。立体について多面的に考察する学習活動を意図的に設定することが求められる。
		② 四角錐の体積	31.0	○		
	(2)	平面で切った立体の体積	8.0		○	
【6】	(1)	三角形の合同の証明	3点 17.3 2点 3.5 1点 24.9 無記入 31.2		○	(1)の三角形の合同の証明においては、見通しを立てて、数学的な表現を用いて、根拠を明確にした上で証明することが大切である。「表現や記号の使い方が間違っている」「根拠がない」「根拠があいまい」という証明が多くみられた。 (2)①では、正三角形や合同な三角形の性質から、点B、P、Q、Dが一直線上にあればよいことに気付くことが必要である。
	(2)	三平方の定理	2.0		○	
	(3)	図形の性質	21.1		○	

【評価の観点】 A：知識及び技能 B：思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順において、確実な定着を図ることが必要である。
- ・「図形」については、線分の長さや平面図形の面積、立体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ・「関数」については、基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。二次関数の変域については、グラフと関連付ける学習活動が求められる。
- ・「データの活用」については、与えられた情報を目的に応じて整理し、データの意味や特徴の理解、データの見方を授業で扱い、生徒に考察させる学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

日常生活や社会の事象を数学的に捉え、表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識及び技能を活用し、統合的・発展的に考察することを通して、数学的な思考力、判断力、表現力等をみるようにした。

- ・【3】(2)「販売する「からあげ」と「とり天」の仕入れ値と定価及び利益について考察する問題」では、日常の事象を数理的に捉え、連立方程式を用いて問題を解決する力をみるようにした。
- ・【4】「大分県の7月の平均気温100年分のデータから近年の気温の変化の傾向を判断する問題」では、箱ひげ図を用いて複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断したことを数学的な表現を用いて説明する力をみるようにした。
- ・【5】「四角錐の展開図から体積を求めたり、四角錐を3つの立体に分けたときの体積を求めたりする問題」では、相似な立体の相似比と体積比の関係等に着目し、問題を解決する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・【3】(2)②の正答率は15.4%であった。定価、割引額、利益の関係性を把握し、問題文に示された条件を過不足なく連立方程式に落とし込むことができたかがポイントであった。また、煩雑な連立方程式を整理しながら正確に解き進める力も求められる。
- ・【4】(2)②の正答率は低かった。根拠となる値を考察し、正確に読み取り、結論を述べることを含めて論理的に説明することができたかが重要であった。複数の集団のデータの傾向を箱ひげ図などのグラフを用いて比較し、その分布の違いを批判的に考察した上で説明する力が必要である。身近な日常や社会の出来事を数理的に捉え、自ら数学的な問題を見出し、その結果を予測しながら、既習の知識や方法を活用して問題を解決する道筋を構想する学習が必要である。
- ・【5】(2)の正答率は4.2%であった。三角錐の展開図においては、組み立てた際の高さとなる線分を正確に特定することが重要であった。また、展開図からどのような三角錐が構成されるかをイメージし、正確に立体の形状を把握した上で、切り取る立体の体積や面積を求める際に、体積比や面積比を適切に利用することが求められる。立体について、様々な視点から考察する学習活動が必要である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したりすること**を通して、基礎・基本の定着が求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返すこと**が必要である。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、定義・定理・性質の理解を深めるとともに、なぜ成り立つのかといった、**論理的に考察し数学的に表現する力**を身に付けることが必要である。
- ③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、身の回りの具体的な事象の中にある二つの数量の依存関係に着目し、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を意図的に設けることが大切である。
- ④ 「データの活用」については、目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが大切である。その際、データに基づいて批判的に考察できるようにすることが必要である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解**し、定着状況を把握、確認した上で指導する必要がある。
- ② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識及び技能を習得しながら、**思考力、判断力、表現力を育成**することが大切である。生徒の発言を拾い上げながら、数学的な見方・考え方のよさを見出す力や得られた結果を基に批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。
- ③ **日常生活や社会の事象**を数理的に捉え数学の問題として見出す力や数学化する力を養い、**主体的に問題解決に取り組む態度**を育成するため、付けたい資質・能力を明確にし、数学的活動を位置付けた単元を構想し、特に**問題発見・解決の過程**を充実させることが重要である。

理 科

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項（誤答例等）
				A	B	
【1】	(1)	① 心臓のはたらき	35.0	○		(1)①心臓の心房が広がったときの弁の状態として、開閉が逆の状態を選択する誤答が多く見られた。 (1)②比率を問う問題形式になると、単に計算結果を求める場合と比較して正答率が下がる状況が見受けられた。 (4)①「露点」という誤答が見られた。語句が示す現象と内容を関連付けて定着する学習活動が必要である。 (4)②「0.92倍」という誤答が見られた。密度の算出を行わず、単に体積変化を見て安直に算出している状況が見られる。体積、密度、質量の関係を図や実物等を用いて、正しく理解することが求められる。
		② 心臓が送り出す血液量	26.7		○	
	(2)	① 全反射	88.0	○		
		② 光の屈折	62.9	○		
	(3)	① 季節の星座の見え方	44.9		○	
		② 星の年周運動	49.4		○	
	(4)	① 融点	74.4	○		
		② 固体と液体の密度	27.3		○	
【2】	(1)	① 火山岩のつくり	62.4	○		(2)①「気体成分」を「空気」としている誤答が多く見られ、「気体」と「空気」の違いが理解できていない状況が見られた。語句の表す意味と現象を正しく理解する学習活動が求められる。 (3)(4)知識を一問一答形式ではなく、組み合わせの形で出題すると、正答率が下がる状況が見受けられる。単に語句を覚えるだけでなく、一連の流れに沿った理解とともに知識を定着させることが求められる。 (5)モデル図やアニメーション動画等を活用し、段階的な変化を丁寧に理解する学習活動が求められる。
		② 火山岩のでき方	2点 63.1 無記入 10.4	○		
	(2)	① 溶岩や軽石の特徴	1点 43.7 無記入 17.3	○		
		② 植物定着の要因	26.0		○	
	(3)	噴火と火山噴出物	39.1	○		
	(4)	岩石の変遷	61.0	○		
	(5)	地層の形成	33.8		○	
【3】	(1)	① 減数分裂	61.4	○		(2)「遺伝子」「形質」の語句の意味が正しく理解できていない誤答が多く見られた。また「遺伝子の組み合わせが多様になり様々な形質が現れるため」等の無性生殖の特長とは反対の内容を解答している誤答が多く見られた。 (3)「発生」という誤答が見られた。語句は図などを活用して、その状態や現象の理解を伴った上で知識として定着することが大切である。 (4)(5)観察結果から判断せずに、断片的な情報で選択する誤答が多く見られた。観察結果から生徒自身が思考して判断できるような学習場面の設定が求められる。
		② 生殖細胞の核の染色体	51.1	○		
		③ 有性生殖による染色体	79.9	○		
	(2)	品種改良の原理	2点 50.0 無記入 18.2		○	
	(3)	胚	53.1	○		
	(4)	遺伝子の組み合わせ	39.2		○	
	(5)	個体の発現の割合	41.7		○	
【4】	(1)	記録テープ打点間隔と時間	44.2		○	(2)②正答率より等速直線運動をする台車に働く力を正しく理解できていない状況が見受けられる。深い理解を伴わずに誤概念のまま物理現象を理解している状況が考えられるため、図やアニメーション等を活用して正しく理解できるような学習場面の設定が求められる。 (3)「4.9cm/s」という単に読み取った数値を記載している誤答が多く見られた。時間、速さ、距離に関する各定義を授業等で正しく理解することが求められる。 (5)「斜面の傾きが大きくなることで水平面上での運動エネルギーが大きくなる」という誤答が多く見られた。2つの実験結果を比較し考察する場面設定が求められる。
	(2)	① 等速直線運動	40.7	○		
		② 等速直線運動で働く力	26.4		○	
	(3)	平均の速さ	40.7		○	
	(4)	運動エネルギーの変化	17.4		○	
	(5)	記号 水平面上での台車の速さ	35.9		○	
		理由 運動エネルギーの比較	2点 24.2 無記入 21.6		○	
【5】	(1)	化学反応式	2点 28.6 無記入 25.3	○		(1)化学反応式の係数がない誤答や、元素記号の大文字小文字を区別して記入できていない誤答が見られた。 (3)(4)正答率が低い状況から、実験結果より情報を整理し、思考、判断する学習活動が求められる。 (5)実験結果のプロットがない状況やグラフの縦軸の数値が不適切な状況である等の誤答が見られた。授業等でグラフをかくときのルールを正しく理解し、各自でグラフ作成する実験等の活動を多く取り入れることが必要である。 (6)(7)複数の実験結果を整理し分析する問題であったが、正答率が低い状況であった。探究活動を行い、教員が生徒の活動による結果を適切に評価し、再び探究活動を行う「探究の過程」を通常の授業で実践していくことが求められる。
	(2)	化学反応前後の質量	1点 74.6 無記入 10.0	○		
	(3)	化学変化と質量の関係	14.1		○	
	(4)	化学反応の質量比	45.0		○	
	(5)	グラフ（酸化銀の反応）	1点 43.7 無記入 16.6	○		
	(6)	化学反応の質量比（炭素と銀）	4.0		○	
	(7)	反応する原子数の比較	9.9		○	

【評価の観点】 A：知識及び技能 B：思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・語句の知識を問う問題では正答率はやや高めであったが、【2】(1)①「等粒状組織」や【3】(3)「発生」という誤答が見られた。語句については知識として反復して身に付ける学習活動が求められる。
- ・知識を活用した問題では正答率はやや低かった。【2】(3)の火山噴出物の色と粘り気の知識と噴火の激しさの知識を関連付けた問題では、正答率は39.1%であった。単に一問一答形式の知識の定着ではなく、知識を組み合わせる総合的に理解する学習活動が求められる。
- ・【5】(5)のグラフ作成の技能を問う問題の正答率は43.7%であった。情報を整理して、結果をグラフにする技能を身に付けるためには、実験の授業等を通じて結果をグラフにする学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

- ・【2】(5) 堆積した地層の分析を通して、堆積する粒子の大きさと大地の変化による堆積の時系列を思考する力をみるようにした。
- ・【3】(2) 身近な植物の育成の実験を通して、遺伝の規則性と品種改良の利点を関連付けて考察した上で、表現する力をみるようにした。
- ・【5】(4) 化学反応前後の質量変化を測定する実験を通して、実験データと化学反応前後の物質の状態を関連付けて、反応する元素の質量比を判断する力を見るようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・【2】(5)の正答率は33.8%であった。地層の形成の理解をもとに変化の過程のイメージが関連付けられていない状況である。授業で動画等を活用し、イメージと理解を伴った学習活動が求められる。
- ・【3】(2)の正答率は50.0%であった。授業での学びと日常生活をより関連付けていくことが必要な状況である。単に知識としてではなく、理論と関連付けて深く考察した上で表現する学習活動が求められる。
- ・【5】(4)の正答率は45.0%であった。与えられた情報と既習事項を関連付けて思考、判断することが必要な状況である。そのため生徒自身が観察や実験を通して思考、判断した上で表現する機会を十分に確保し、その内容を教員が評価し生徒に丁寧にフィードバックする学習活動が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 探究の学習過程を踏まえた**問題解決的な学習活動**を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの充実を図り、**日常生活や社会との関連を意識させ、生徒が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できる授業**が求められる。
- ② 観察・実験の結果を、表にまとめたり、グラフ化したりすることを通して**分析して解釈し規則性を見出す学習活動**を充実させることが必要である。その際、実験結果をグラフ化する技能において、軸目盛の値の適切な設定やプロットの仕方など、**グラフの正しい記入方法を丁寧に指導する**必要がある。
- ③ 理科の**見方・考え方を働かせながら**、知識及び技能を習得させ、**比較**することで問題を見いだしたり、既習の内容などと**関係付けて**根拠を示すことで課題の解決につなげたり、原因と結果の関係といった観点から探究の過程を振り返ったりする場面を設定する必要がある。
- ④ 視覚的に捉えづらい分野（原子・分子、地球と宇宙など）は、理科の見方である実体的な視点や時間的空間的な視点を押さえた上で、**模型やICT（動画視聴含む）を活用してイメージしやすいように工夫する**必要がある。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容や教科の指導について理解し、高校入試の分析結果を参考に、入学時における生徒の状況・実態に応じて**単元計画や各授業で身に付けたい力を明確にすることが必要である。**
- ② 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、生徒に探究の過程を意識させ、**科学的に探究するための資質・能力を育成することが必要である。**
- ③ 生徒同士の対話や教員とのやり取り、1人1台端末の活用等を促すことによって、生徒自身が積極的に意見の交換や科学的な根拠に基づいた議論を行い、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を実施することが必要である。
- ④ 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることに触れ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるとともに理科への関心を高め、**生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。**

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項（誤答例等）
				A	B	
【1】	A	1番 対話の内容に合うイラスト（もの）	94.2	○		対話の内容を正確に聞き取る力が必要である。1番では数詞、名詞ともよく聞き取れていた。
		2番 対話の内容に合うイラスト（もの）	57.3		○	
	B	1番 Whereで始まる疑問文に対する答え	70.8	○		何をたずねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。2番ではやや長い英文が正答の根拠となったため、正答率が比較的低かった。
		2番 Whatで始まる疑問文に対する答え	39.9	○		
		3番 Whatで始まる疑問文に対する答え	61.2		○	
	C	1番 対話の内容に対する聞き取り	32.0	○		対話の内容を理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。1番、2番では正答となる選択肢が、聞き取った英文の言い換え表現であることが理解できず、正答率が低かった。
		2番 対話の内容に対する聞き取り	35.2	○		
		3番 対話の要点に対する聞き取り	84.5		○	
【2】	A	(1) 英文の読み取りと語句の記述	24.4	○		対話の内容を正確に読み取る力が必要である。基本的な語彙については、異なる場面で繰り返し活用することを通し習得することが求められる。(1)の語句記述では、本文中の表現（express my feelings）をそのまま抜き出す解答が目立ち、代名詞を正しく変化させることができていなかった。
		(2) 英文の読み取りと語の記述	35.9	○		
		(3) 英文の読み取りと語の選択（文法）	79.5	○		
		(4) 英文の読み取りと語句の選択	73.7	○		
	B	(1) ウェブサイトと英文の読み取り	54.8		○	ウェブサイトと会話の内容を正確に理解し、情報を整理する力が求められる。日頃から、コミュニケーションを行う目的、場面、状況を意識した学習活動を計画することが求められる。
		(2) ウェブサイトと英文の読み取り	26.8		○	
【3】	(1)	場面に応じた英文の選択	49.5	○		目的や意図に応じた表現を使うことが求められる。
	(2)	場面に応じた英文の記述	3点 8.2 2点 3.9 1点 22.2 無記入 34.0		○	言語の働きを意識して、与えられた情報を踏まえたうえで会話の場面に応じた適切な表現を使うことが求められる。比較表現を正確に使えていない解答が散見された。
	(3)	日常生活の中で自分が人から助けてもらった経験	5点 6.8 4点 1.7 3点 37.7 無記入 30.9		○	話題となっている英文を読み、それに関連する自分の経験を簡単な語や文を用いて書く力が求められる。受動態を正確に使えておらず、「助けられた経験」となっていない解答や、時制の誤りが散見された。
	(4)	英文の読み取りと語句選択	52.5	○		
【4】	(1)	英文の要点理解	64.8	○		一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、書き手が伝えようとしている要点を捉えたり、論理の展開を押さえたりして読む力が求められる。読んだことをもとに、話したり書いたりして伝える活動を日常的に取り入れる指導が必要である。(3)ではsend them for とする前置詞の誤りが目立った。
	(2)	英文の要点理解	58.4	○		
	(3)	英文の読み取りと語句記述	10.2		○	
	(4)	英文の読み取りと語句選択	52.5	○		
	(5)	世界が抱える課題について	4点 6.7 3点 3.6 2点 14.9 無記入 45.2		○	読んで得た情報をもとに、賛否や感想、意見やその理由を書くなど学習活動の工夫が求められる。コミュニケーションの目的、場面、状況に応じ、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定する工夫が求められる。日常的な話題だけでなく、社会的な話題に触れておくことが重要である。
	(6)	英文の要点理解	48.5		○	
【5】	(1)	下線部の理由	43.6		○	論理の展開を押さえながら、段落と段落のつながりを理解する力や、文中で述べられている事実だけでなく、背景にある人物の心情などを聞き取る力が求められる。
	(2)	英文の内容理解	61.8		○	
	(3)	英文の内容理解	42.7		○	
	(4)	英文の内容理解	52.7	○		話の要点を捉える力や、話の流れに沿って適切な語彙を使用する力が求められる。(6)⑦では前後の文脈は理解できているが、空所に入る適切な語の選択ができなかった。
	(5)	英文の要点理解	48.5		○	
	(6)	英文の要点理解	41.7		○	

【評価の観点】 A：知識及び技能 B：思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・「聞くこと」、「読むこと」について、聞いたり読んだりした内容を捉える問題や表やスライドを踏まえて話の要点を捉える力は身に付いている。
- ・文構造や文法事項など、知識の理解にとどまらず、目的や場面、状況などが設定された言語活動において繰り返し活用できるような指導上の工夫が必要である。
- ・「書くこと」については、生徒が学習した語彙や文構造を文脈に沿って正確に使う力が求められる。
- ・実際のコミュニケーションの場面において、目的や場面、状況などに応じた適切な表現を用いることができるようになるために、日常の授業において、表現しようとすることを生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択する機会を設定し、間違いながら習得していくことができるよう、計画的に指導することが求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

- ・【1】では校内放送や対話の内容を聞いて情報をまとめる力、【2】Bではウェブサイトと英文の内容を把握し必要な情報を読み取る力、【4】【5】では対話やスピーチの要点や概要を捉える力をみるようにした。
- ・【3】(2)では駅ホワイトボードに書かれてある情報を踏まえて会話の中で適切に表現する力、(3)では「人から助けてもらった経験」について、簡単な語や文を用いて表現する力、【4】(5)では「世界が抱える課題」について、前後の文脈とのつながりを意識して表現する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・「聞くこと」「読むこと」においては、具体的な目的や場面、状況などに応じて、必要な情報または概要や要点などを理解する力が身に付いている。
- ・「書くこと」においては、【4】(5)の無記入率は45.2%であり、**聞いたり読んだりした内容を踏まえて、自分の考えを理由や具体例を意識しながら伝え合うなどの統合的な言語活動を一層工夫することが必要である。**

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、**小学校との学びのつながりを意識するとともに**、付けたい力を明確にし、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して情報や考えを理解したり、理解したことを踏まえて自分の意見や考えを表現して伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養うことが求められる。そのためには以下の点に留意した指導が必要である。

- ① 単元を通して、生徒に身に付けさせたい力を具体的に設定したうえで、CAN-DO リストに基づいて指導計画を立てる。また各単元の明確な評価規準に基づき、生徒の学習状況を的確に把握する。
- ② **目的や場面、状況などを明確に設定した上で**、生徒が英語を使う機会を増やし、生徒の英語による言語活動を中心に授業を展開する。言語活動では、生徒が内容面だけでなく言語面にも意識を向けられるよう、活動の振り返りや教師からのフィードバックを充実させる。
- ③ **4技能5領域を総合的に育成するために**、複数の技能を結び付けた活動を充実させる。聞いたり読んだりして得た事実や情報を踏まえて、自分の考えや意見などをまとまりのある文章で書いたり、ペアやグループで伝え合ったり、発表したりする活動を行うことが求められる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校では、中学校における学習と高等学校学習指導要領とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が必要である。

- ① 年間、学期及び単元を見通し、CAN-DO リストに基づいて「生徒が英語を使って何ができるようになるか」を設定する。
- ② 授業において、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動や、複数技能を結び付けた言語活動**を授業に取り入れること、パフォーマンステスト等を通して生徒の学習状況を見取り、計画的に観点別学習評価を実施することが求められる。
- ③ **中学校との学びのつながりを意識するとともに**、高等学校においても、コミュニケーションを行う上での支援や語彙・表現など段階に応じた配慮や指導により、コミュニケーションの目標を達成することが求められる。